

FOCUS 呼吸器内科・放射線治療科・呼吸器外科

> 当院での肺がん診療について

当院では、多くの診療科による連携体制を構築し、迅速かつ高度で質の高い診療を提供しています。大学病院は診断から治療までに時間がかかるという懸念はあるかとは思いますが、下記の図のように診断後早期（1-2週間程度、遅くとも4週間以内）に手術が行われるようになっております。



呼吸器内科
地域医療連携福祉センター長
榎原 純

Timeline



予後の延長や、治癒を目指した集学的な治療を行っています。

呼吸器内科 Respiratory Medicine

最新の遺伝子・バイオマーカー検査を活用し、抗がん剤治療や免疫療法に精通した医師が、**患者一人ひとりに最適な治療法を選択する個別化医療**を実践しています。

放射線治療科 Radiation Oncology

定位放射線治療や強度変調放射線療法などの**最先端技術を用いた高精度の放射線治療**を提供するとともに、肺がんにも保険適用となる**陽子線治療も実施**しています。

呼吸器外科 Thoracic Surgery

肺がん外科手術に関しては、単孔式やロボット支援手術など**最先端技術を活用し、低侵襲かつ安全な治療を提供**しています。また、当院は肺移植や体外循環補助を伴う拡大手術にも豊富な経験を有しています。

information クリニック等への“情報提供”を開始しました。

new



北大病院

参照
ID Link
一方向連携



クリニック等

当院では、患者様の診療情報を共有する**地域医療連携ネットワークサービス「ID-Link」**を導入しております。

これまで、同サービスを利用する医療機関との双方向での情報共有を実施しておりましたが、**地域の医療機関の皆さまへの情報提供を開始いたしました**ので、お知らせします。

当院へご紹介いただいている患者様の診療情報の参照を希望される場合は、**当院の該当診療科医師もしくは下記の事務担当までご連絡を賜りますようお願い申し上げます。**

(事務担当)

北海道大学病院 医療支援課地域医療連携係
TEL: 011-706-5629 (直通)



発行

2025年9月

北海道大学病院地域医療連携福祉センター
〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
TEL: 011-706-7943 FAX: 011-706-7945
<https://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>



北海道大学病院

北海道大学病院地域医療連携福祉センター

NEWSLETTER 9

新病院長就任インタビュー

2025.



なすはら やすゆき
南須原 康行

昭和63年3月 北海道大学医学部卒業
平成28年 病院長補佐就任（平成31年より副病院長）
平成29年 教授就任
令和 7年 病院長就任

これからの大学病院のあり方を南須原新病院長はどう見据えているのか。その率直な思いと、これからのビジョンを伺いました。

病院長に就任してから、改めて感じていることは

病院長という立場になって初めて、施設の老朽化、経営の課題など本当に様々な問題があるのだと日々実感しています。

私の信念は「どんな声でもまず聞く」ことでありますので、一つひとつの方々の声に真摯に耳を傾け、対話を重ねて解決していきます。多くの問題が山積していますが、もともとマネジメントが好きな面もあり、この忙しさにむしろやりがいを感じています。

プライベートでのリフレッシュ法は

最近はもっぱらゴルフとサウナです。病院長自身が不健康な見た目ではないと思っていて、忙しい中でも日々健康を意識して、体型維持に努めています。ただ、すすきのも大好きでして、数々の名店の誘惑を振り切るの大変です。笑



地域連携のあり方と課題

「敷居は低く、志は高く、頼れるパートナーへ」

地域の医療機関との連携についての考えは

これまで、当院では一つの診療科内でも専門が細かく分かれているため、『どのような症例を紹介したらいいのか分かりにくい』、『こんな症状で大学病院に紹介していいものか』とためらわれる、といったお声をいただいてきました。

大学病院は、「最後の砦」というイメージを持たれがちですが、今後はあらゆる面で、北海道の医療をともに支えるパートナーとして、信頼される医療機関を目指したいと考えています。スマーズな連携ができるよう、病院訪問などを通じて、地域の先生方と対話し、関係構築ができると思っています。



『北海道の医療体制』の今後について

2040年に向けて人口が減少し高齢化が進む中、複数の医療圏が広域に分散している『課題先進地域』とも言われる北海道の医療を支えることは、大変なミッションであるとともに、北海道大学病院が果たすべき義務の一つと考えます。

今後はオンライン診療やICT連携などを用いたDXを進め、チャレンジを続けていくとともに、そのグッドプラクティスが、日本全国にも展開されるようなものになればと考えています。地域の医療機関のみなさまも是非ご協力をお願いします。



> 最新技術を駆使し、地域の皆様に満足いただける治療を



教授 平野 聰

診療教授 七戸 俊明

胃・食道・胆道・脾臓の疾患に対する高度先進的な外科治療は、“消化器外科II”が担当しております。



> 上部消化管グループ

胃癌・食道癌に対する最先端手術

当院は胃癌学会認定施設Aかつ食道外科専門医認定施設であり、複数の専門医が高度かつ迅速な医療を提供しています。



da Vinci

hinotori

検査からすべて対応いたします



新田 健雄 和田 秀之

約30年前に道内他施設に先駆けて胃癌、食道癌に対する腹腔鏡・胸腔鏡手術を導入し、現在はロボット手術を中心に行なっています。小さな傷にも関わらず精密かつ安全な手術が可能であり、早期回復とQOL向上につながっています。

2013年に導入した『da Vinci』TMに加え、2024年からは国産ロボット『hinotori』TMも加わり、胃癌・食道癌へのロボット手術は250件を超えました。

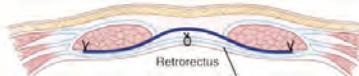
鼠径部、腹壁ヘルニアに対する最新の低侵襲手術

腹壁のあらゆるヘルニアの手術が経験豊富なスタッフが担当します。鼠径部ヘルニア、腹壁ヘルニアはともに鏡視下手術を第一選択しています。腹壁瘢痕ヘルニアは鏡視下で腹直筋の裏の層にメッシュを留置するeTEP法を第一選択にしています。eTEP法は患者さんの術後疼痛が少なく近年世界的に注目を浴びています。

あらゆる併存疾患に対しても専門的に対応可能です。



サシーム・パウデル



> 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリープ状胃切除術

腹腔鏡下スリープ状胃切除は、胃をバナナ1本くらいの太さに縮小する手術で、糖尿病などの肥満関連疾患有する高度肥満症患者を対象に保険診療として行われています。

減量はもちろんのこと、肥満関連疾患の改善も期待できる手術です。

※肥満関連症疾患の改善
高血圧・高脂血症：50%程度、糖尿病：75%程度



手術治療の検討を希望している患者様などお問い合わせいただければ幸いです。



高野 博信

> 胆膵グループ

胆道疾患・脾疾患でのご相談お受けしております

当院は日本肝胆膵外科学会の肝胆膵高度技能専門医師修練施設Aに認定されており、7人の高度技能専門医により安全かつ根治性の高い胆膵外科手術を提供するよう心がけております。

低侵襲手術については2名の内視鏡外科学会技術認定医と2名のロボット脾切除認定プロクターが在籍し、傷が小さいかつ精緻な手術を行なっています。



難治癌である胆膵癌の治癒率を向上させるために、手術に化学療法や放射線治療を適切に組み合わせる集学的治療を導入し、世界的にも高い5年生存率が得られています。また、低悪性度腫瘍に対しては、臓器温存手術と低侵襲手術（ロボット手術、腹腔鏡下手術）を積極的に適応しております。2017年に当科主導で神経内分泌腫瘍センター（NETcenter）を設立し、国内唯一の専門治療センターとして、最先端の治療提供を行なっています。



ロボット支援下脾頭十二指腸切除

"RPD"

肝門部胆管癌に対する拡大肝切除+動門脈合併切除 左腎靜脈グラフト 脾頭十二指腸切除

"DP-CAR"

右動脈肝後区域枝 -右肝動脈吻合 (micro)

左腎靜脈グラフト 脾